

電気情報工学科で学ぶにあたって

令和2（2020）年4月

九州大学工学部
電気情報工学科

目次

1. はじめに	
1.1 電気情報工学科へようこそ	1
1.2 期待される学生像	1
2. 電気情報工学科で学べる学問分野と履修課程について	2
3. 入学から卒業まで	
3.1 入学時のクラス分けとクラス指導教員	3
3.2 1年次	3
3.3 2年次からの課程分け	4
3.4 3年次への進級	5
3.5 4年次へ（卒業研究着手）	5
3.6 卒業研究のための研究室配属	6
3.7 卒業の要件	6
4. 履修課程ごとの要求科目	6
5. 履修登録と成績評価	
5.1 履修登録及び成績揭示	7
5.2 再履修について	8
6. 学習環境	
6.1 理系図書館	9
6.2 学生用計算機システム	10
6.3 掲示板	11
6.4 講義室	12
7. 電気主任技術者国家試験の免除	12
8. 卒業後の進路	
8.1 大学院進学	12
8.2 企業などへの就職	13

図表リスト

図 1	電気情報工学の分野の拡がり	14
表 1	履修課程の区分と研究・産業分野との関連	15
図 2	基幹教育科目と専攻教育科目の時期と講義キャンパスの概略	16
表 2	令和 2 年度クラス指導教員	16
表 3	1 年次に開講される専攻教育科目の時間割	17
表 4	各履修課程の代表的分野	17
表 5	要求科目表	18
図 3	電気電子工学課程（A 課程）の科目系統図	23
図 4	電子通信工学課程（B 課程）の科目系統図	24
図 5	計算機工学課程（C 課程）の科目系統図	25
図 6	掲示板などの配置図	26
表 6	電気主任技術者免状の種類	26
表 7	電気主任技術者認定基準に規定する授業科目及び履修単位	27
表 8	関連する大学院の専攻名と学生定員	30
表 9	過去 5 年間の電気情報工学科卒業生（大学院進学者を除く）の 主な就職先	31

参考資料

- 参考資料 1 電気情報工学科卒業研究テーマ集
- 参考資料 2 基幹教育履修要項
- 参考資料 3 大学院システム情報科学府パンフレット
大学院システム情報科学府データ

1. はじめに

1.1 電気情報工学科へようこそ

電気情報工学科の教職員一同、皆様を歓迎申し上げます。

工学部で学ぶことができる内容の中で、電気情報工学科で学ぶ内容ほど人の営みに幅広く関わる学問は他の学科にはないと言ってよいでしょう。例えば、身近なところでは、携帯型の情報端末は利便性だけでなく安全や安心をも得ています。一方、宇宙に目をやりますと、多数の人工衛星との通信が極めて高い信頼性をもって行われています。また、スーパーコンピュータは、衛星から送られてくる地球規模のデータを短時間のうちに整理して未来予測までして私たちに有益なデータを提供してくれています。そして、これらは電気エネルギーの基盤の上に成り立っています。電気情報工学はこれらの全ての基礎となる学問なのです。

電気情報工学を応用した技術やサービスに対する期待はますます高まっています。スマートグリッド、5G 通信、AI、ビッグデータ解析、自動運転、Society5.0 などその期待を表す特徴的な言葉の一部です。このように、電気情報工学は、未来のあるべき社会を創っていくための基礎であり、創造の原動力でもあります。

私たち電気情報工学科教職員のミッションは、柔軟で大きな可能性をもった入学者諸君の一人ひとりが、将来、電気情報工学を基礎に、輝きながら社会に貢献できるよう学びの場を提供することです。私たちはそのための最良のカリキュラムを用意しました。

本書は、皆さんがこれから学んでいく上で知っておいてほしい事柄を皆さんに伝えるためのものです。まずは全体を通して理解するとともに、卒業まで無くさずに保管して活用して下さい。

1.2 期待される学生像

- ・自ら諸問題を発見し、これらを解決するための課題を設定し、その深い解明をめざして学習しようとする自主性があること。
- ・自らの能力を最大限に発揮していこうという意欲があること。
- ・基礎的な学力を身につける努力をいとわず、積極的に学習する意欲があること。
- ・一般的な教養を高めて、広くかつ深い識見を持つよう努力し、リーダーとして社会で活躍する意欲があること。
- ・国際化社会を鑑み、語学上達への強い意欲と異文化交流への関心をもち、十分なコミュニケーション能力を身につけること。

2. 電気情報工学科で学べる学問分野と履修課程について

電気情報工学科に関連する学問分野は広く、4年間の在籍中にそのすべてに精通することは困難です。そこで、電気情報工学科は三つの履修課程（電気電子工学課程、電子通信工学課程、計算機工学課程）を用意しています。各課程の分野特性を下に記します。皆さんはこのいずれか一つの履修課程を1年後期終了時に選択する必要があります。その後は各課程に分かれて授業を受けることが多くなるので、この課程選択を「課程分け」と呼んでいます。詳細は4章で説明します。一方、全課程に共通の基礎科目が用意されています。図1は、基礎科目やその他の科目にどのようなものがあるか、またそれらと履修課程との対応をおおまかに示したものです。

授業科目は、必ず修得すべき「必修科目」と自分で選択して学ぶ「選択科目」に分類されます。必修科目は課程ごとに異なります。一方、選択科目は自身が属する課程以外向けに開講される授業科目も履修することができます。

電気電子工学課程（A 課程）：電気・電子工学とそれに立脚したシステムに関する学問分野を中心として学習します。電磁気学や電気・電子回路の基礎知識に基づき、各種電気機器やエネルギー変換機器などの要素技術、さらにそれらを有機的に結びつけた大規模システムに関して幅広い学力を身につける事によって、将来の社会基盤と科学技術の発展に対する適応力と広い視野、総合力ならびに独創性を持った技術者を養成します。

電子通信工学課程（B 課程）：情報・通信技術（ICT）の数理・物理的側面からシステムまでを体系的に学習します。エレクトロニクスの知識をもとにして、システムLSI構成技術を習得します。さらに、通信システム（伝送、ネットワーク）ならびに各種の応用システムを学びます。これにより、システムを構成するすべての要素技術について基礎的な知識を得るとともに、情報・通信システムの全体像に明るい技術者を養成します。

計算機工学課程（C 課程）：計算機科学を中心とした情報工学に関連する学問分野を中心に学習します。計算機のハードウェアとソフトウェアに関する基本知識から応用分野の基礎知識を幅広く身に付け、実際に情報システムの設計を行える基礎能力を身に付けます。また、電気工学や電子工学に関する基礎的な知識も身に付けることで、情報化社会を支えるシステム構築に対応できる幅の広い技術者を養成します。

表1には、各履修課程が研究や産業分野にどう対応しているかをキーワードによって示しています。これらの図表から、電気情報工学分野のカバーしているスペクトルの広がりが理解できるでしょう。

3. 入学から卒業まで

入学から卒業までの4年間は1年から4年までで構成され、各学年は Semester制と Quarter制により学期に分かれます。Semester制においては1学年は前期と後期から成り、Quarter制においては春学期、夏学期、秋学期、冬学期から成ります。各学期の履修科目と主な行事をまとめると図2のようになります。

3.1 入学時のクラス分けとクラス指導教員

入学と同時に皆さんは学生番号順に三つのクラスに分かれます。それらは理15、理16、理17と呼ばれます。1年生の間は概ねこのクラス単位で講義を受講します。課程分けした2年生からもこのクラス分けは継続し、クラス単位で開講される講義と履修課程単位で開講される講義があるので注意して下さい。

皆さんが卒業研究に着手するまでの間、つまり3年次が終わるまでの期間に皆さん一人ひとりに学習や生活上の助言をしたり相談窓口を務めるクラス指導教員(表2を参照)がいます。また、事情によって各課程長や学科長が随時相談を受け付けます。履修課程の選択、卒業研究課題の選択、勉強やその他の問題についてアドバイスを得たいときには、気軽にクラス指導教員に相談して下さい。

クラス指導教員や課程長、学科長に連絡が取りにくい場合には教務事務室(ウエスト2号館3階307号室)を気軽に訪ねて下さい。

卒業研究に着手した後は、卒業研究指導教員や就職担当教授が大学院進学や就職について相談に応じることになります。

3.2 1年次

1年前期(春学期)～2年前期(夏学期)は伊都キャンパス・センターゾーンとウエストゾーンにおいて、2年後期(秋学期)～4年後期(冬学期)は主として伊都キャンパス・ウエストゾーンにおいて授業が行われます(図2を参照のこと。以下の説明に際しても適宜図2を参照して下さい)。

1年前期(春学期)～2年前期(夏学期)には、伊都キャンパス・センターゾーンにおいて言語文化科目、健康・スポーツ科学科目、理系ディシプリン科目、文系ディシプリン科目等の基幹教育科目の授業が行われます。これについては、参考資料2「基幹教育履修要項」をよく読んで、学習計画を立てて下さい。また、1年次は週1回(専攻教育日:火曜日4限)伊都キャンパス・ウエストゾーンにおいて、専攻教育科目の授業を受けることになります。1年次に開講される専攻教育科目の時間割は表3の通りです。

3.3 2年次からの課程分け

電気情報工学の分野は電子材料、デバイス、システム制御、電力、通信メディア、コンピュータ、知能システム、言語処理など極めて広い技術分野を含んでおり、その内容も高度になってきています。このため学部4年間で全ての分野を深く学ぶことは困難です。そこで電気情報工学科では2年次から三つの履修課程を開設し、諸君がその一つを選んで効果的に電気情報工学を学習できるようにしています。

課程分けは2年前期開始前に説明会を開催した後に行われますので、各履修課程の内容をよく知り、自己の適性や自分の将来像をよく考えた上で履修課程を選んで下さい。ただし、各履修課程には定員が設定されており、希望者が集中した場合には1年次の科目の成績を参考に振り分けられます。

課程分けの方法

- ・ 各履修課程の配属人数に枠を設け1年次在籍者をほぼ1/3ずつ配属します。
 - 上限：1年次在籍者数/3×1.05（小数点以下切り下げ）
 - 下限：1年次在籍者数/3×0.95（小数点以下切り上げ）
- ・ 上記の人数制限のもとで、以下に記す科目の総合成績順に配属します。

課程分けの際に参考にする科目

下記科目の1年次終了時の成績（GP：Grade Point、5.1履修登録及び成績揭示参照）を参考にします。ただし、これらの科目の成績だけでは履修課程決定が困難な場合には、1年次終了時の全科目の成績（GP）を参考にします。

- ・ 英語
 - 学術英語A・リセプション
 - 学術英語A・プロダクション
 - 学術英語B・インテグレート

- ・ 理系ディシプリン科目およびサイバーセキュリティ科目の必修科目のうち下記の科目
 - 微分積分学・同演習A
 - 微分積分学・同演習B
 - 線形代数学・同演習A
 - 線形代数学・同演習B
 - 基幹物理学I A
 - 基幹物理学I A演習

- 基幹物理学 I B
- 基幹物理学 I B 演習
- プログラミング演習
- 自然科学総合実験（基礎）
- 自然科学総合実験（発展）
- サイバーセキュリティ基礎論

2年後期（秋学期）に入ると、三つの履修課程に分かれた専攻教育科目の授業が本格的に始まります。各履修課程のカリキュラムの詳細な説明は、2年開始前（課程分けに関する説明会）にて行います。選択科目を選択する際の指針として各履修課程の代表的分野（表4参照）の選択科目を選択推奨科目として提示していますので、各自の興味や進路に応じて参考にして下さい。

3.4 3年次への進級

2年後期終了時において、下記の①～③の条件を満たした学生は、3年次へ進級し3年前期以降に開講される専攻教育科目を履修することができます。

- ① 電気情報工学科が要求している基幹教育科目¹から、「自然科学総合実験（基礎）」（1単位）、「自然科学総合実験（発展）」（1単位）を含む38単位以上を修得していること。
- ② 1年次の「電気情報工学入門Ⅰ」、「電気情報工学入門Ⅱ」を修得していること。
- ③ 履修課程ごとに要求されている2年次開講専攻教育科目²から21単位以上を修得していること。

3.5 4年次へ（卒業研究着手）

3年後期終了時において、下記の①～④をすべて満たした学生は、4年次に実施される卒業研究に着手することができます。必修科目と選択科目でそれぞれ必要単位が定められているので注意して下さい。

- ① 基幹教育科目について電気情報工学科が定める卒業要件のうち、高年次基幹教育科目（2単位）の修得を除くすべての要件をみたしていること。
- ② 1年次の「電気情報工学入門Ⅰ」、「電気情報工学入門Ⅱ」を修得していること。
- ③ 「電気情報工学基礎実験」、「電気情報工学実験Ⅰ」、「電気情報工学実験Ⅱ」を修得して

¹ 参考資料2 基幹教育履修要項 履修細目参照

² 本冊子 p18～ 表5 要求科目表を参照

いること。

- ④ 履修課程ごとに要求されている2年次以降に開講される専攻教育科目³から、必修科目40単位以上を含む58単位以上を修得していること。

3.6 卒業研究のための研究室配属

卒業研究の着手が認められた学生は、卒業研究の指導教員を選ぶことになります。卒業研究のテーマについては、別添の参考資料1を参照して下さい（ただし同資料に記載されているテーマは令和2年度におけるものです）。教員によっては卒業研究の内容を考慮してそれに応じた履修課程を示している場合もありますが、**指導教員の選択は履修課程とは関係なく行うことができます**。履修課程選択と同様に卒業研究の指導教員の選択に際しては皆さんの希望を重視します。しかし、指導教員毎に定員が設けられているので、希望者が多い場合には成績に従って振り分けられることとなります。その際参考にする科目は、各履修課程の専攻教育科目の必修科目（履修課程によって異なる）です。これらの科目の成績だけでは配属決定が困難な場合には、専攻教育科目の選択科目も合わせて参考にします。

なお、2年前期（春学期）から4年後期（冬学期）の間に、高年次基幹教育科目2単位を修得する必要があるので注意して下さい。

3.7 卒業の要件

卒業研究を終えるといよいよ卒業です。卒業するには下記①、②を内訳とする129.5単位以上を修得する必要があります。

- ①基幹教育科目 46.5単位

各科目区分の要件は、参考資料2 基幹教育履修要項の履修細目を参照すること。

- ②専攻教育科目 83単位（1年次の専攻教育科目 4単位を含む）

各履修課程に要求される必修科目／選択推奨科目／選択科目については、4章を参照すること。

4. 履修課程ごとの要求科目

電気情報工学科の学生は1年前期から4年後期において、以下に定める履修課程ごとの要件を満たすように専攻教育科目の単位を修得する必要があります（表5参照）。

- ① 1年次に修得すべき専攻教育科目の総単位数は各履修課程とも共通で4単位です。
② 2年前期の開始前に三つの履修課程（電気電子工学課程（A課程）、電子通信工学課程（B

³ 本冊子 p18～ 表5 要求科目表を参照

課程)、計算機工学課程 (C 課程)) のいずれか一つを選択し、以降の学期で各履修課程毎に要求されている専攻教育科目の授業科目を履修しなければなりません。

- ③ 2 年前期～4 年後期に修得すべき専攻教育科目の総単位数は各履修課程とも共通で 79 単位以上です (卒業要件単位数は 129.5 単位であり、その内訳は基幹教育科目 46.5 単位、専攻教育科目 83 単位 (1 年次の専攻教育科目 4 単位を含む))。
- ④ 表 5 において、履修課程欄に記した○は各履修課程の必修科目、△は各履修課程の選択推奨科目、無印は選択科目を表します。
- ⑤ 図 3～5 に各履修課程の科目系統図を示します。これらの図は各履修課程のどの分野にどの科目が関係し、さらに科目間にどのような関連があるかを示しています。各自の興味や将来の希望進路に応じて科目履修のプランを立てる際に役立ててください。
- ⑥ 3 年次までに開講される各履修課程の選択推奨科目または選択科目を時間割の都合で 3 年次に履修できない場合には 4 年次に履修することをお奨めします。

※注

表 5 には 1 年前期～4 年後期の専攻教育科目のみを記載しています。これらの学期においては、同表に記載している科目の他に、入学年度の「基幹教育履修要項」(参考資料 2) に記載された履修細目にしたがって、基幹教育科目を履修しなければなりません。

5. 履修登録と成績評価

5.1 履修登録及び成績揭示

①履修登録

基幹教育科目と専攻教育科目の履修登録は、学務部ホームページ(履修関係情報)

<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/class/learning/registration/> にアクセスして行います。

履修登録が正しく行われていない場合、履修・受験しても単位が認められないので注意してください。期限後のデータ修正は困難ですので、決められた期限を必ず守ってください。履修科目の登録方法、期限については、上記 URL を確認してください。

②成績揭示

皆さんが履修した科目の成績は、学期終了後、学務情報システム (学生用 Web システム) に揭示されます。九州大学では、GPA (Grade Point Average) 制度により、学部の全授業科目の成績評価を行っています。

GPA 制度による成績評価⁴は、以下の通りです。GPA 2.0 以上を卒業の目安としています。

⁴ 参考資料 2 基幹教育履修要項参照

評語	成績の区分		GP
A	Excellent	基準を大きく超えて優秀である	4
B	Good	基準を超えて優秀である	3
C	Satisfactory	望ましい基準に達している	2
D	Pass	単位を認める最低限の基準には達している	1
F	Fail	基準を大きく下回る	0
W	Withdrawal	履修中止	—
R	Recognition	認定科目(合否判定科目等, および本学以外で修得した科目を単位として認めたもの)	—

- (注) 1. 「A～D」を合格、「F」を不合格とする。
2. 「W」および「R」は、GPAの算出対象外とする。
3. 「合否判定科目等」とは評点を付さずに「合・否」等(2段階)で評価する科目を指す。

5.2 再履修について

FあるいはDと評価された科目は再履修することができます。ただし、F及びDの成績評価のついた科目全てについて再履修出来ることを保証するということではなく、クラス規模によっては再履修の希望に応えられず、再履修が認められない場合もあります。そのため、再履修を希望する場合には、予めその可否については自分で授業担当教員に確認することが必要です。再履修はあくまでも例外的な措置として捉え、(初回の)履修時に確実に単位を修得できるよう努めることを強く勧めます。

再履修した場合、過去に得たFあるいはDの評価は、再履修によって得た評価に置き換えられます。なお、再履修後の評価が再履修前より低い評価であっても、再履修によって得た評価に置き換えられるため注意が必要です。例えば、D評価であった科目が再履修でF評価となった場合、その科目についてはFに置き換えられ、単位も認められなくなります。

※注

再履修の場合は、以下のように科目によって取り扱いが異なりますので注意して下さい。なお再履修の科目が基幹教育科目の場合は、基幹教育課に確認して下さい。

① 再履修の科目が「常微分方程式」「複素関数論」の場合

これらの科目については他の学科向けにも同じ名称で講義が開講されています。再履修の場合には、他学科向けの講義を受講しても良いですが、必ず受講前に講義担当教員に申し出て許可を取って下さい。

② 再履修の科目が電気情報工学科の科目のうち、1年次を対象とした科目（電気情報工学入門Ⅰ、電気情報工学入門Ⅱ）の場合

自分の所属クラス以外の講義を受講しても良いです。

（例）電気情報工学科 15クラスの学生が「電気情報工学入門Ⅰ」を再履修する場合は、必ずしも15クラス対象の講義を受講する必要はなく、どのクラス対象の講義を受講しても良いです。

③ 再履修の科目が電気情報工学科の科目のうち、2年次以上を対象とした科目の場合（ただし上記①を除く）

必ず自分の所属履修課程の講義を受講して下さい。

（例）電気情報工学科 電子通信工学課程（B課程）の学生が「デジタル信号処理」を再履修する場合は、電気電子工学課程（A課程）や計算機工学課程（C課程）対象の講義ではなく、必ず電子通信工学課程（B課程）対象の講義を受講して下さい。

再試験

不合格とは単位修得が認められなかったものであり、必修科目の場合、修得しなければ卒業できないので、今後なお一層の努力が必要となります。なお、再試験は授業開講の次学期以降に実施することができるかとされており、その成績次第で合格の判定を受けることができますが、授業中のレポート、小テスト、中間テストの成績等を重視する教員もあり、再試験の成績のみで単位を修得することができるかどうかについては、授業担当教員に確認して下さい。再試験の評価が不合格等（不合格、試験欠席）の場合は、次学期以降に改めて履修登録を行って下さい。

授業科目によっては再試験の実施が困難なものがありますので、再試験が試験時間割に明示されていない科目については個別に授業担当教員に確認して下さい。再試験が実施されなかった場合にも次学期以降に改めて履修登録を行う必要があります。

6. 学習環境

6.1 理系図書館

理系図書館は図6のように、ウエスト2号館に隣接しています。開館時間や利用方法については九州大学理系図書館のホームページ <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/libraries/scitech> を参照して下さい。

理系図書館には、約120万冊の蔵書のほかに、無線LAN、複写センター、グループ学習室、オープンセミナー室、ラーニングcommons、AVブース、リフレッシュコーナーなどが整備されています。これらの施設や設備を、学習のみならず、より豊かで充実した学生生活を送るために

大いに活用して下さい。

6.2 学生用計算機システム

電気情報工学科の学生を対象とした計算機システムです。大きく2つのシステムに分かれており、実験や演習などに利用する授業科目の関係から履修課程によって利用するシステムを分けています。利用上の注意やマナーを守って有効に活用して下さい。

①教育用計算機システム(1)

- ・利用対象者： 主に電気電子工学課程および電子通信工学課程の学部学生
- ・設置場所： 創作工房7（ウエスト2号館 316-1号室）
- ・システム構成の概要

デスクトップパソコン 61台

カラーレーザープリンタ 2台

ソフトウェア：

Office (Word、Excel、PowerPoint など) --- ドキュメント、プレゼン資料作成

Visual Studio --- プログラム開発

Visio --- 製図

MATLAB --- 制御

Mathematica --- 技術計算

LabVIEW --- 計測

Multisim、Pspice、SCAT --- 回路シミュレーション、その他

- ・用途：

授業の演習、レポート作成、計算機ネットワークの利用（電子メール、WWW閲覧など）

②教育用計算機システム(2)

- ・利用対象者： 計算機工学課程の学部学生（利用に際してはアカウントとパスワードが必要）
- ・設置場所： 情報処理演習室（ウエスト2号館 505号室）

創作工房3及び4（ウエスト2号館 304号室及び305号室）

- ・システム構成の概要

【情報処理演習室】

デスクトップパソコン 70台

レーザープリンタ 3台

ソフトウェア

C/C++コンパイラ、アセンブラ、エディタ、Scheme 処理系など

--用途：実験、授業、レポート作成、インターネットの利用など

Office (Word、Excel、PowerPoint など)

--用途：ドキュメント、プレゼン資料作成

【創作工房3及び4】

サーバ 1台

ノートパソコン 70台

レーザープリンタ 4台

システムL S I 実験ボード

プロセッサ実験ボード

ソフトウェア

Quartus Prime、C コンパイラ、アセンブラ、エディタなど

--用途：実験、授業、レポート作成など

6.3 掲示板

掲示板には印刷物を壁に貼り出す方式（以下、掲示板と称す）とWEBを利用したWEB掲示板の2種類があります。皆さんへの通知、通達、連絡、報告及び案内に関する事項は、原則として掲示板で行います。特に、緊急を要する連絡事項等は見落としの無いように留意して下さい。各掲示板の位置は図6を参照して下さい。電気情報工学科ホームページ等WEB掲示板の情報は参考とし、掲示板の情報が正式なものとします。

電気情報工学科の学生に対する通知、通達、連絡、報告及び案内に関する事項は、全て下記の諸掲示板に掲示されるので常時よく注意して見るようにして下さい。

①電気情報工学科掲示板（ウエスト2号館3階エレベータホール横）

学科掲示板には、学科学生向けの情報が掲示されます。各個人に対する連絡等にも利用されるので毎日必ず注意して見て下さい。

②工学部教務課ホール内掲示板（ウエスト4号館2階）

③WEB掲示板

・学生向け掲示板一覧（公開対象者によって閲覧制限がかけられています）

<https://sougou.isee.kyushu-u.ac.jp/sougou/unibbs/view/bbsv-list-board.php>

- ・休講掲示板(学外からも閲覧可能)

https://sougou.isee.kyushu-u.ac.jp/sougou/unibbs/view/bbsv-list-view.php?bbs_id=34

6.4 講義室

基幹教育科目の講義は主にセンターゾーン、専攻教育科目の科目は主にウエストゾーン（ウエスト2号館、工学部西講義棟、総合学習プラザ、**図6**を参照）の講義室において行われます。各授業が行われる講義室は時間割に示してあります。

7. 電気主任技術者国家試験の免除

電気事業法により、電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督をするには、電気主任技術者の免状が必要です。

九州大学工学部電気情報工学科の卒業生で、認定に要する科目を履修しその単位を修得して、卒業後所定の経験年数を経た者は**表6**に示す国家試験の免除の資格を得ることができます。認定に要する授業科目及び履修単位は**表7**のとおりです。

8. 卒業後の進路

8.1 大学院進学

電気情報工学科の学生が卒業後に仕事に従事する職場では、高度な専門知識と研究能力をもつ人材を必要とすることが多く、実際多くの企業が、大学院出身者を積極的に採用しています（参考資料3を参照）。このため大学としては、できるだけ多くの学生が大学院へ進学するように勧めており、現在、学部学生の80%以上が大学院に進学しています。皆さんにとっては4年後（入学試験は4年生の夏休みに実施予定）のこととはいえ、入学した現時点で大学院進学を目標としておくように勧めます。

大学院は、2年間の前期課程（修士課程）と3年間の後期課程（博士課程）に分かれています。前期課程の修了者には修士の学位が与えられ、後期課程の修了者には博士の学位が与えられます。前期課程のみで修了することももちろん可能ですが、出来れば後期課程まで進学することを勧めます。研究の進捗により修了を短縮できる場合もあり、最短では25歳で博士号を取得することも可能です。

皆さんが進学する大学院の専攻（「専攻は大学院組織の単位で、学部でいえば、学科に相当する」）としては、主として「システム情報科学府」の情報学専攻、情報知能工学専攻、電気電子工学専攻がありますが、この他に「総合理工学府」量子プロセス理工学専攻、「システム生命科学府」システム生命科学専攻、「統合新領域学府」のユーザー感性学専攻、オートモーティブサイエンス専攻、ライブラリーサイエンス専攻の一部の教員も電気情報工学科の教育に携わって

おり、これらの専攻も電気情報工学科の学生の進学の対象となっています（表8参照）。

※システム情報科学府、総合理工学府では専攻構成の変更を計画しています。なお、この計画は予定であり、変更する場合があります。

システム情報科学府の大学院入学試験の試験科目は専攻により少し異なりますが、数学、英語（TOEIC, TOEFL または IELTS のスコアを利用する）の他に専門科目がこれに加わります。

一般に大学院は学部と独立した組織運営がなされており、他大学の大学院に進学することも可能です。入学試験の科目や内容や時期は大学によって異なりますから、他大学の大学院をめざす場合は十分に事前調査を行う必要があります。

8.2 企業などへの就職

学部卒業後に企業などへ就職することも可能です。企業への就職には、大学からの推薦状を貰って入社試験に臨む推薦方式と推薦状を貰わない自由応募方式の二通りがあります。就職手続きに関する詳しい説明は、3年後期に就職担当教員が実施する説明会などで行いますので必ず出席するようにして下さい。過去5年間の電気情報工学科卒業生（大学院進学者を除く）の主な就職先は表9を参考にして下さい。

WEBページ

電気情報工学科WEBページ	http://portal.eecs.kyushu-u.ac.jp/
大学院システム情報科学府WEBページ	http://portal.isee.kyushu-u.ac.jp/

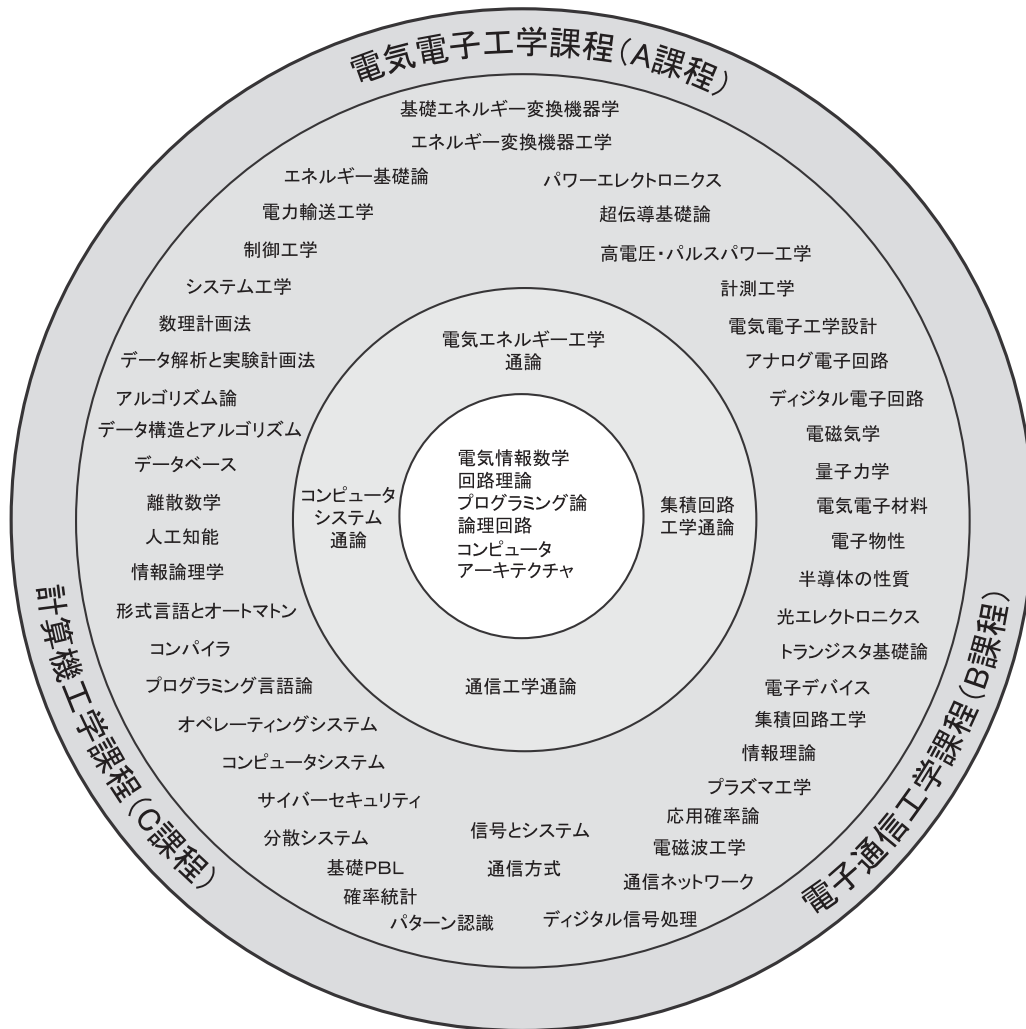


図1 電気情報工学の分野の拡がり

表 1 履修課程の区分と研究・産業分野との関連

履修課程	キーワード
電気電子工学課程 (A課程)	電磁気学, 回路理論, 電子物性・デバイス, 電気・電子材料, 光エレクトロニクス, 電子回路, 計測, 制御, 信号処理, 電気エネルギー発生, 新エネルギー技術, 電磁エネルギー変換, 電気機器学, パワーエレクトロニクス, 超伝導工学, プラズマ工学, 電力システム, システム工学, 産業応用システム, 交通システム, 生産システム, 通信システム, 数値解析, 計算機援用設計
電子通信工学課程 (B課程)	集積回路工学, 光エレクトロニクス, 機能性電子材料, 電子物性, 電子デバイス, 超格子デバイス, レーザ, 機能素子, センサデバイス, ディ스플레이デバイス, 超伝導エレクトロニクス, プラズマエレクトロニクス, デバイス・集積回路設計, システム解析・構成, 大規模回路設計, システムLSI, 通信ネットワーク, 音声・画像処理, 衛星通信, 移動通信, 光通信, マイクロ波・光回路設計, 光情報処理
計算機工学課程 (C課程)	アルゴリズム論, インターネット, オペレーティングシステム, コンパイラ, コンピュータ・アーキテクチャ, コンピュータ・グラフィックス, システムLSI, セキュリティ, ソフトウェア基礎論, ソフトウェア工学, データベース, ニューラルネットワーク, パターン認識, ヒューマンインタフェース, プログラミング言語, マルチエージェント, マルチメディア, 自然言語処理, ロボティクス, 機械学習理論, データマイニング, 情報ネットワーク, 人工知能, 認知科学, 並列・分散・協調処理

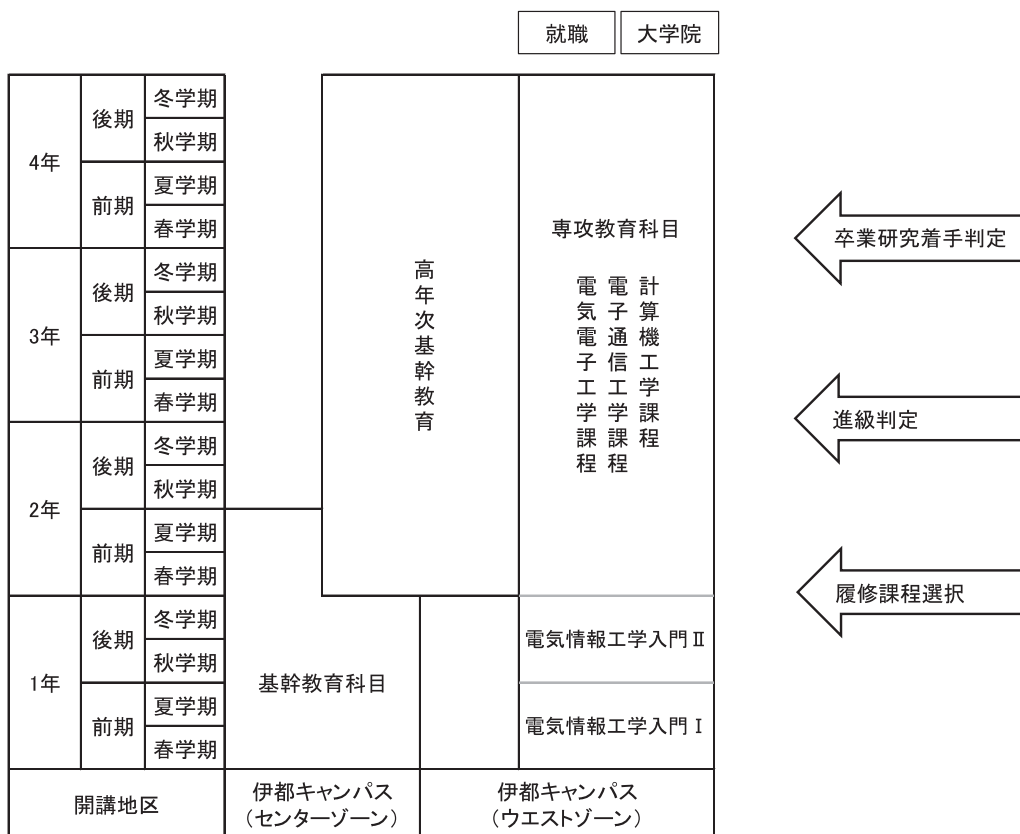


図2 基幹教育科目と専攻教育科目の時期と講義キャンパスの概略

表2 令和2年度クラス指導教員

クラス	クラス指導教員氏名 [担当課程] (所属大学院専攻・コース、部屋、電話)
15	竹内 純一 [C] (情報学 ウェスト2号館643号室 802-3621)
	木村 俊二 [B] (情報エレクトロニクス ウェスト2号館445号室 802-3732)
	川邊 武俊 [A] (電気システム工学 ウェスト2号館551号室 802-3690)
	廣川 真男 [C] (情報学 ウェスト2号館744号室 802-3650)
	多喜川 良 [B] (情報エレクトロニクス ウェスト2号館448号室 802-3740)
16	庄山 正仁 [A] (電気システム工学 ウェスト2号館655号室 802-3713)
	内田 誠一 [C] (情報知能工学 ウェスト2号館856号室 802-3586)
	池上 浩 [A] (電気システム工学 ウェスト2号館556号室 802-3750)
	興 雄司 [B] (情報エレクトロニクス ウェスト2号館646号室 802-3742)
	小野 貴継 [C] (情報知能工学 ウェスト2号館647号室 802-3695)
17	井上 弘士 [C] (情報知能工学 ウェスト2号館747号室 802-3793)
	荒川 豊 [C] (情報知能工学 ウェスト2号館956号室 802-3792)
	岩熊 成卓 [A] (電気システム工学 CE51 N206号室 802-3831)
	堀 磨伊也 [C] (電気システム工学 ウェスト2号館550号室 802-3591)
	田中 輝光 [B] (情報エレクトロニクス ウェスト2号館454号室 802-3744)

表3 1年次に開講される専攻教育科目の時間割

【前期・後期とも火曜日4限目に実施】

	4限目 (14:50-16:20)
火曜日	電気情報工学入門Ⅰ・Ⅱ (工学部講義室) 電気情報工学科全教員

表4 各履修課程の代表的分野

履修課程	代表的分野
電気電子工学課程 (A課程)	A1 計測制御分野 A2 エネルギー分野
電子通信工学課程 (B課程)	B1 電子工学分野 B2 通信工学分野
計算機工学課程 (C課程)	C1 計算機アーキテクチャ分野 C2 数理情報科学分野 C3 ソフトウェア工学分野 C4 AI・ロボティクス分野 C5 通信ネットワーク・ サイバーセキュリティ分野

表5 要求科目表

記号などの説明

履修課程	A 電気電子工学課程 B 電子通信工学課程 C 計算機工学課程 ○ 各履修課程の必修科目 △ 各履修課程の選択推奨科目 無印 選択科目
国家資格	電気主任技術者の資格認定 詳細は7章を参照 ◎ 認定に必要な科目（必須） ○ 認定に必要な科目（選択） （注）を付した科目はどちらか一方を必ず履修しなければならない

(1) 1年前期

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
電気情報工学入門Ⅰ	2		○	○	○	

(2) 1年後期

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
電気情報工学入門Ⅱ	2		○	○	○	

(3)2年前期

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
電気情報数学	2		○	○	○	
回路理論Ⅰ	2	春学期	○	○	○	◎
回路理論Ⅱ	2	夏学期	○	○	○	◎
論理回路	2	春学期	○	○	○	○
プログラミング論Ⅰ	2	春学期	○	○	○	
プログラミング演習Ⅰ	1	夏学期	○	○	○	○
コンピュータアーキテクチャⅠ	2	夏学期	○	○	○	○
情報論理学	2				○	
データ構造とアルゴリズムⅠA	1	春学期			○	
データ構造とアルゴリズムⅠB	1	夏学期			○	
テクノロジー・マーケティング	2	春/夏				

(4)2年後期

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
電磁気学Ⅰ	2				△	◎
電磁気学Ⅰ	2	秋学期	○	○		◎
電磁気学Ⅱ	2	冬学期	○	○		◎
回路理論Ⅲ	2		○	○		◎
デジタル電子回路	2			○		○
制御工学Ⅰ	2		○			◎
電子物性	2		○	○		○
計算機プログラミング演習Ⅰ	1	秋学期	○	○		○
計算機プログラミング演習Ⅱ	1	冬学期	○	○		○
信号とシステム	2			○	△	○
データ構造とアルゴリズムⅠA	1	秋学期	△	△		
データ構造とアルゴリズムⅠB	1	冬学期	△	△		
エネルギー基礎論	2		○			◎
形式言語とオートマトンA	1	秋学期			○	
形式言語とオートマトンB	1	冬学期			○	
オペレーティングシステム	2				○	
データ構造とアルゴリズムⅠ演習	1				○	
コンピュータアーキテクチャⅡ	2				△	○
基礎PBLⅠ	1				○	
常微分方程式	2		○	○	○	
応用確率論	2			△		
電気情報工学基礎実験	2		○	○	○	◎
テクノロジー・マーケティング	2	秋/冬				

(5)3年前期

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
電磁気学Ⅲ	2		○	○		○
デジタル電子回路	2		△		△	○
制御工学ⅡA	1	春学期	△			
制御工学ⅡB	1	夏学期	△			
離散数学	2			△	○	
プログラミング論Ⅱ	2				△	
アナログ電子回路Ⅰ	2		○	○	△	○
データ構造とアルゴリズムⅡA	1	春学期			△	
データ構造とアルゴリズムⅡB	1	夏学期			△	
基礎エネルギー変換機器学	2		○			◎
コンピュータシステムⅠA	1	春学期			△	
コンピュータシステムⅠB	1	夏学期			△	
計測工学Ⅰ	2		○			◎
計測工学A	1	春学期		△	△	
計測工学B	1	夏学期		△	△	
情報理論	2		△	○	○	○
半導体の性質	1	春学期	△	○		○
トランジスタ基礎論	1	夏学期	△	○		
電磁波工学Ⅰ	1	春学期	△	△		
電磁波工学Ⅱ	1	夏学期	△	△		
電力輸送工学	2		△			◎
確率統計	2				○	○
データベースA	1	春学期			○	
データベースB	1	夏学期			○	
電気電子材料A	1	春学期	△			
電気電子材料B	1	夏学期	△			
プログラミング言語論A	1	春学期			△	
プログラミング言語論B	1	夏学期			△	
集積回路工学通論A	1	春学期			○	
集積回路工学通論B	1	夏学期			○	
デジタル信号処理	2		△	△	△	○
複素関数論	2		○	○	△	
量子力学応用Ⅰ	1	春学期		△		
量子力学応用Ⅱ	1	夏学期		△		
基礎PBLⅡ	1				○	
電気情報工学実験Ⅰ	2		○	○	○	◎
電気情報工学実習*	1		△	△	△	

*：電気情報工学実習は3年次又は4年次休暇中に2週間以上行う。

(6)3年後期

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
制御工学Ⅰ	2				△	◎
アナログ電子回路Ⅱ	2		△	△		○(注)
計測工学Ⅱ	2		△			○
コンピュータシステムⅡA	1	秋学期			△	
コンピュータシステムⅡB	1	冬学期			△	
電子デバイス	2			△		○
通信方式	2			○	△	○
制御工学A	1	秋学期		○		
制御工学B	1	冬学期		○		
コンパイラA	1	秋学期			○	
コンパイラB	1	冬学期			○	
サイバーセキュリティ	2				△	
エネルギー変換機器工学	2		△			◎
電気エネルギー工学通論	2			○	○	○
通信工学通論A	1	秋学期	○			
通信工学通論B	1	冬学期	○			
コンピュータシステム通論A	1	秋学期	○	○		
コンピュータシステム通論B	1	冬学期	○	○		
集積回路工学	2		△	△		○
パワーエレクトロニクス	2		△			◎
システム工学	2		△			○
通信ネットワークA	1	秋学期		△	△	
通信ネットワークB	1	冬学期		△	△	
超伝導基礎論A	1	秋学期	△			
超伝導基礎論B	1	冬学期	△			
プラズマ工学	2		△	△		○
データ解析と実験計画法	2				△	
数理計画法	2		△		△	
技術表現法A	1	秋学期			△	
技術表現法B	1	冬学期			△	
高電圧・パルスパワー工学	2		△			○
分散システム	2				△	
アルゴリズム論A	1	秋学期			△	
アルゴリズム論B	1	冬学期			△	
人工知能	2				△	
光エレクトロニクスⅠ	1	秋学期	△	△		○
光エレクトロニクスⅡ	1	冬学期	△	△		○
電気情報工学実験Ⅱ	2		○	○	○	◎
電気情報工学実験Ⅲ	2				○	
電気情報工学実習*	1		(△)	(△)	(△)	

* : 電気情報工学実習は3年次又は4年次休暇中に2週間以上行う。

(7)4年前期

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
パターン認識A	1	春学期			△	
パターン認識B	1	夏学期			△	
基礎PBLⅢ	2				△	
電気電子工学設計	2		△	△		○(注)
電気情報工学実習*	1		(△)	(△)	(△)	

*：電気情報工学実習は3年次又は4年次休暇中に2週間以上行う。

(8)4年後期

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
電気法規および施設管理	2		△			◎

(9)4年通年

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
電気情報工学卒業研究	6		○	○	○	

大学院連携科目

授業科目	単位数	クォーター 科目 開講期	履修課程			国家資格
			A	B	C	電気主任
ヒューマン・インタフェース	2		履修は自由選択。ただし、大学院システム情報科学府入学後に単位を認定する。			
ICT社会基盤デザイン特論	2					
先端電子物性	2					

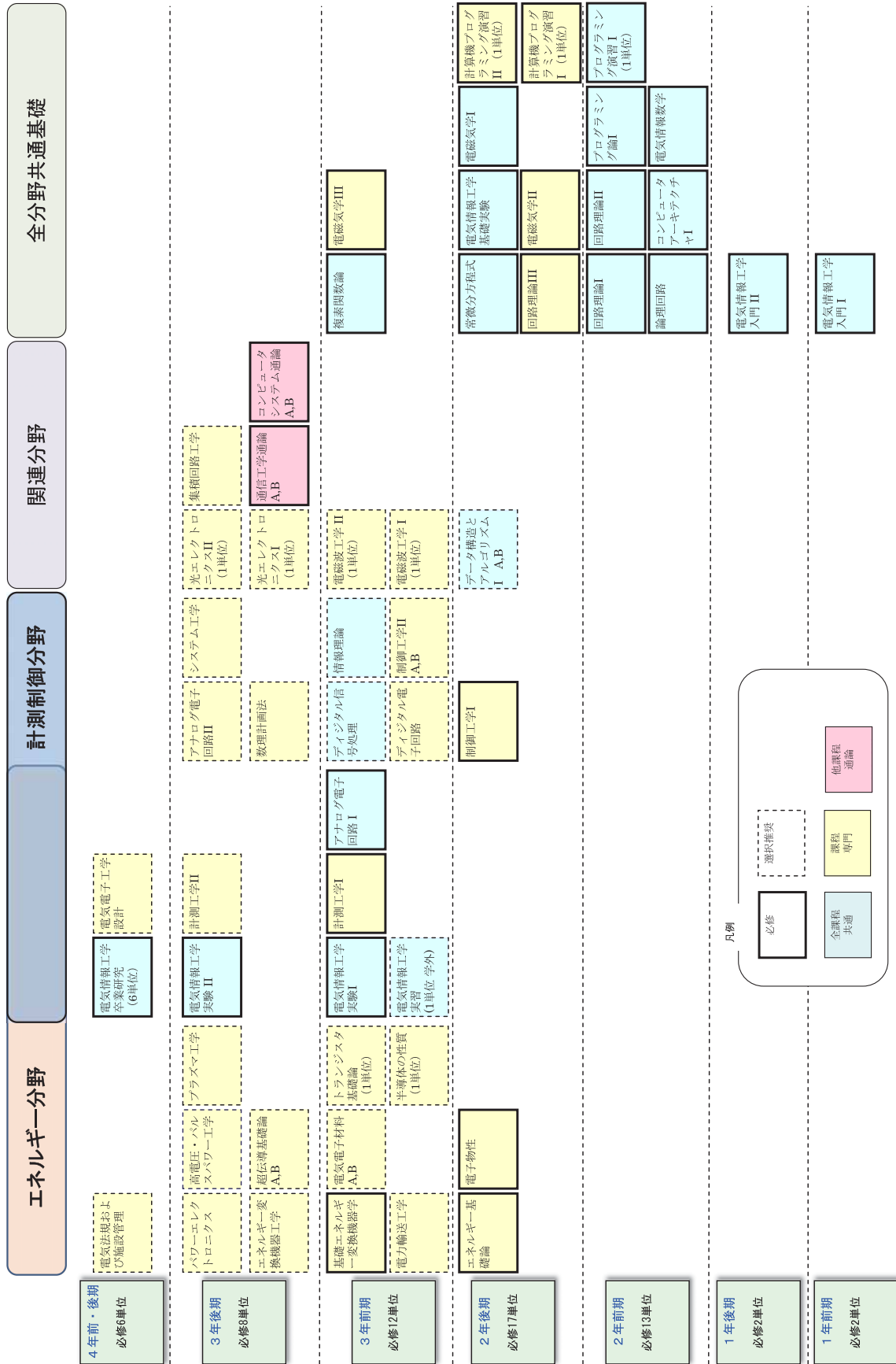


図 3 電気電子工学課程（A 課程）の科目系統図

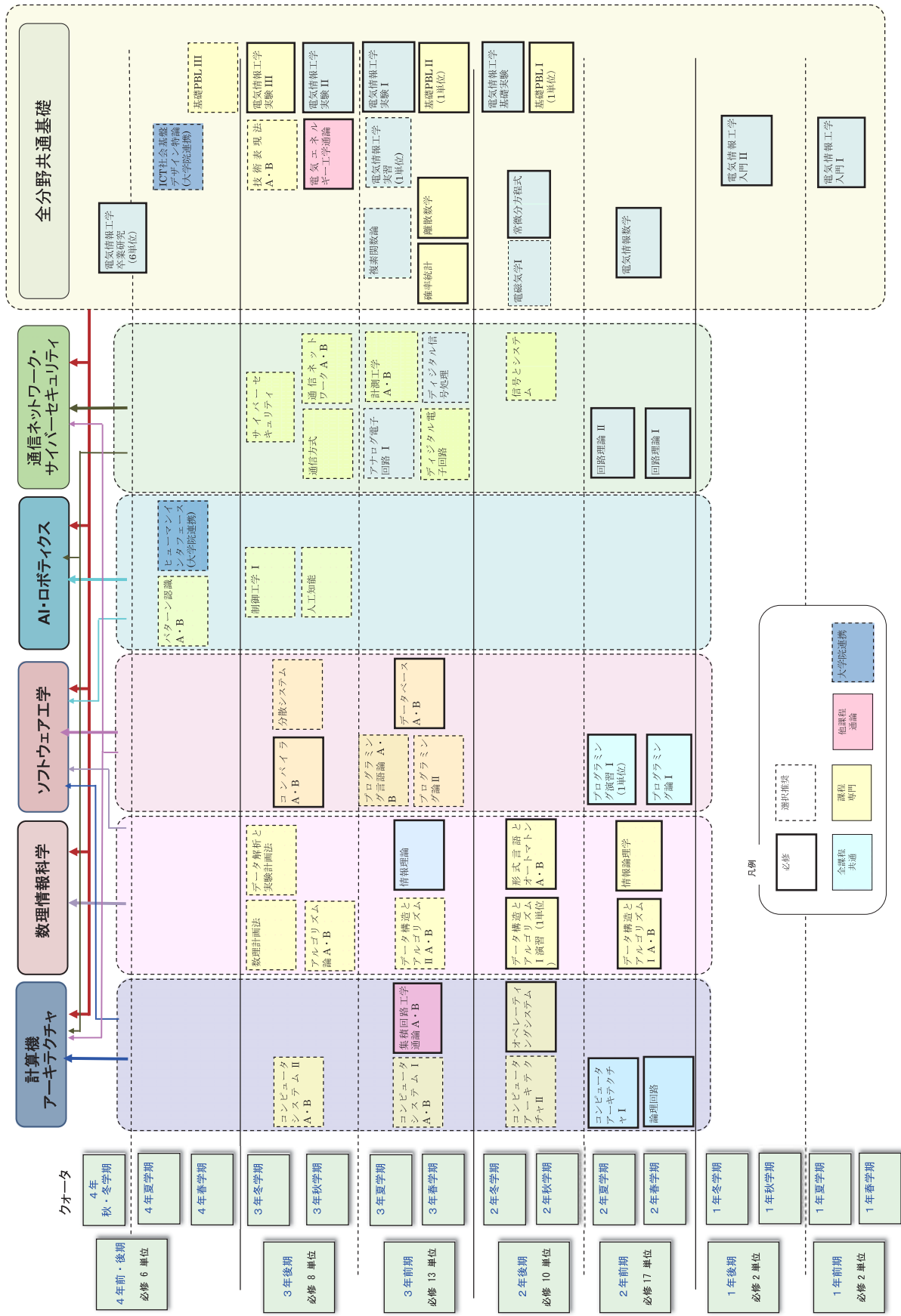


図5 計算機工学課程（C課程）の科目系統図

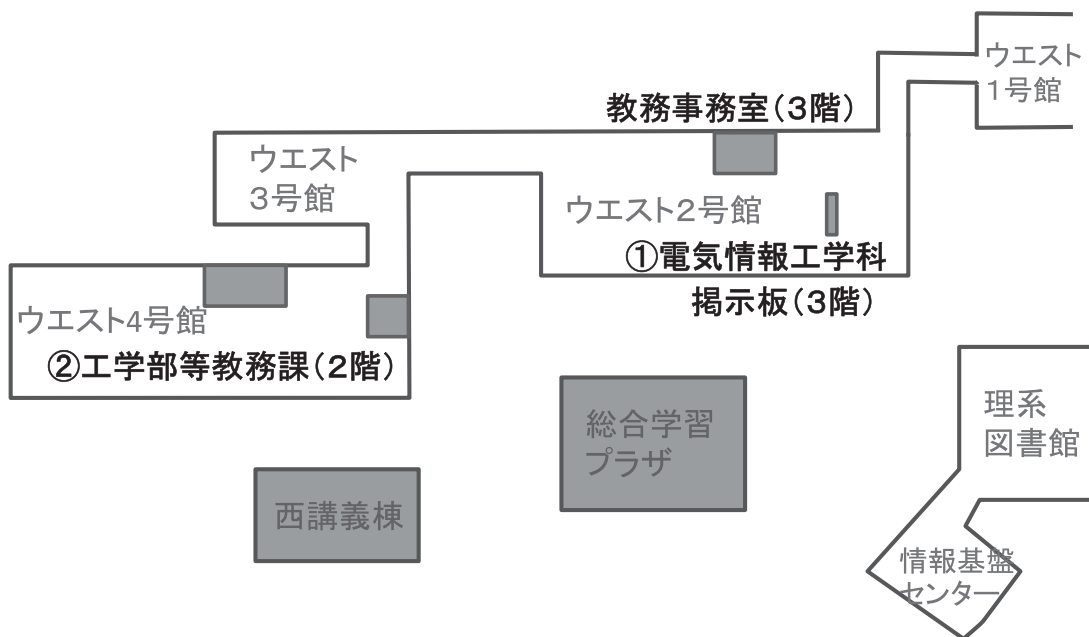


図6 掲示板上などの配置図

表6 電気主任技術者免状の種類

免状の種類	監督できる範囲	実務経験		履修科目
		実務内容	経験年数	
第一種電気主任技術者免状	全般	電圧5万ボルト以上の電気工作物の工事維持又は運用	卒業後5年以上	表7を参照
第二種電気主任技術者免状	17万ボルト未満の電気工作物	1万ボルト以上	卒業後3年以上	表7を参照
第三種電気主任技術者免状	5万ボルト未満の電気工作物	500ボルト以上	卒業後1年以上	表7を参照

表7 電気主任技術者認定基準に規定する授業科目及び履修単位

科目区分	学 科 目	単 位 数					学 科 目 の 概 要	
		1年	2年	3年	4年	計		
① 電気工学又は電子工学等の基礎に関するもの 17単位以上	◎ 科目	電磁気学Ⅰ		2			2	ベクトル解析、電磁界と基本法則、真空中の静電界、真空中における導体系
		電磁気学Ⅱ		2			2	誘電体、静電エネルギーと静電力、定常電流界、定常電流による磁界、マクスウェル方程式
		回路理論Ⅰ		2			2	抵抗回路、回路素子、正弦波と複素数、交流回路と記号の計算法、相互インダクタンスと変成器
		回路理論Ⅱ		2			2	回路方程式、回路に関する諸定理、二端子対網とその基本的表示法
		回路理論Ⅲ		2			2	能動回路、3相交流、集中定数回路の過渡現象
		計測工学Ⅰ			2		2	電気・電子計測の基礎（測定方式、測定限界、電気・電子計器）、電気量・磁気量測定の基礎
	小 計					1	2	
	○ 科目	電磁気学Ⅲ			2		2	定常電流による磁界、磁性体、電磁誘導と磁界のエネルギー、マクスウェル方程式、電磁波
		計測工学Ⅱ			2		2	電流、電圧、インピーダンス、電力、周波数・位相測定、パルス、高周波、磁気計測
		アナログ電子回路Ⅰ			2		2	半導体とダイオード、トランジスタの基本特性、hパラメータとトランジスタ増幅器、オペアンプ回路
		デジタル電子回路			2		2	バイポーラ論理ゲート、論理回路、波形の発生と操作、PLD回路、DA・DA変換回路、
		半導体の性質			1		1	半導体結晶、半導体のエネルギーバンド、真性半導体と外因性半導体、キャリアの発生と輸送
		電子デバイス			2		2	磁性体デバイス、超伝導デバイス、液晶デバイス、光半導体デバイス、その他のデバイス
		集積回路工学			2		2	集積回路の構成素子、集積回路の製造技術、集積回路の基本構成、集積回路設計の基礎
		確率統計			2		2	確率現象の定式化、確率変数とその分布、統計的推測概論、パラメータ推定
		計算機プログラミング演習Ⅰ		1			1	微分方程式および偏微分方程式、信号の標本化および量子化、過渡現象シミュレーション、電磁界シミュレーション
		計算機プログラミング演習Ⅱ		1			1	非線形方程式、常微分方程式、数値積分、補間と近似、制御解析
	電子物性		2			2	量子力学、統計力学、金属の自由電子論、電子輸送現象、結晶構造、エネルギーバンド構造、半導体	
	小 計					1	9	
計					3	1		
② 発電、並びに電気法規に関するもの 送電、配電及び電気材料 8単位以上	◎ 科目	エネルギー基礎論		2			2	エネルギーと社会、火力発電、原子力発電、水力発電、地球環境、燃料電池、風力・太陽光発電、エネルギー貯蔵、核融合発電
		電力輸送工学			2		2	送配電の基礎、表示、システムの安定性、故障計算、潮流計算、電力システムの保護、変電工学
		電気法規および施設管理				2	2	電気法規、施設管理
	小 計						6	
	○ 科目	高電圧・パルスパワー工学			2		2	高電圧工学の基礎、高電圧・パルスパワーの発生、計測、利用
		電気エネルギー工学通論			2		2	電気機器、電動機のパワーエレクトロニクス制御、パワーエレクトロニクス、電気エネルギーと環境、電力輸送システム
		システム工学			2		2	システムの表現、信頼性、システムシミュレーション、スケジューリング、システムの最適化
小 計						6		
計					1	2		

科目区分	学 科 目	単 位 数					学 科 目 の 概 要	
		1年	2年	3年	4年	計		
③ 並びに情報伝送及び処理に関するもの 電気及び電子機器、自動制御、電気エネルギー利用	◎ 科目	基礎エネルギー変換機器学			2		2	電気-機械エネルギー変換、電気機器の統一原理、パワーエレクトロニクスの基礎
		エネルギー変換機器工学			2		2	変圧器、誘導機、同期機、直流機の定常解析、電気機器の空間ベクトル理論、ダブリング概論
		パワーエレクトロニクス			2		2	基本回路、パワーエレクトロニクス制御、電源装置、電力システムへの応用
		制御工学 I		2			2	フィードバック制御の基礎及び設計、伝達関数、周波数応答、安定判別、応答特性
	小 計					8		
	○ 科目	光エレクトロニクス I			1		1	光の伝搬とモード理論、フレネル領域・ Fraunhofer領域、ガウシアビーム、光線伝搬率、光導波路理論、誘電体伝搬
		光エレクトロニクス II			1		1	フォトニクス基礎、シュレディンガー方程式、古典的振動子、アインシュタイン係数、レート方程式、発光デバイス、測光デバイス、レーザー、光集積回路
		プラズマ工学			2		2	平均自由行程、マクスウェル・ボルツマン分布、気体の絶縁破壊、荷電粒子の電磁界中の運動
		プログラミング演習 I		1			1	プログラミング言語C入門、コンピュータの仕組み、数値演算誤差、連立一次方程式、非線形方程式、数値積分、データ構造とアルゴリズム入門
		論理回路		2			2	アナログとデジタル、ブール代数と論理関数、組合せ論理回路、有限状態機械、算術演算回路
		情報理論			2		2	情報とは、情報量と情報源、離散的通信路と通信路容量、符号化の理論、連続的通信系の理論、標準化定理
		デジタル信号処理			2		2	デジタル信号処理の概要、信号のデジタル化、離散信号とその表現、デジタルフィルタ
		信号とシステム		2			2	フーリエ変換とフーリエ逆変換、信号の変調とサンプリング、連続時間システムの特性と解析
		通信方式			2		2	フーリエ変換と線形システム、雑音、デジタル伝送、アナログ変調、デジタル変調、多重伝送
コンピュータアーキテクチャ I			2			2	コンピュータの原理、命令セット・アーキテクチャ、演算回路の構成、プロセッサの構成、記憶回路の構成	
コンピュータアーキテクチャ II		2			2	コンピュータ・システムの性能、命令パイプライン処理、キャッシュメモリ、仮想記憶、ファイル I/O		
小 計					19			
計					27			
10 単位以上								
④ 工学若しくは電子工学実習に関するもの 電気工学若しくは電子工学実験又は電気	◎ 科目	電気情報工学基礎実験		2			2	交流ブリッジ、LCR回路の周波数特性、過渡現象、ダブリング回路、光測定
		電気情報工学実験 I			2		2	変圧器、誘導機、同期機、直流機、太陽電池、トランジスタ増幅回路、振幅変調及び周波数変調
		電気情報工学実験 II			2		2	電気応用実験：半導体レーザーと受光素子、プラズマの特性、サボ系の制御 電気応用実験：電圧・電界の光計測、システム、プラズマ制御、パワーエレクトロニクス制御
計					6			
6 単位以上								

科目区分	学 科 目	単 位 数					学 科 目 の 概 要
		1年	2年	3年	4年	計	
⑤ 電気及び電子機器製図に関するもの 2単位以上	○科目 電気電子工学設計				2	2	回路シミュレータ SPICE、過渡応答、周辺回路の設計、組み込みシステムの作製と特性評価
	アナログ電子回路Ⅱ			2		2	オペアンプ回路、発振回路、変・復調回路、これらの回路のシミュレーション解析、電源回路、ノイズとその対策
	計					4	
総 計 80単位 認定に必要な単位＝①（17単位以上）＋②（8単位以上） ＋③（10単位以上）＋④（6単位以上）＋⑤（2単位以上） ＝43単位以上							

【注意】 ◎印の科目は必ず取得しておくこと。

表8 関連する大学院の専攻名と学生定員

(令和2年4月現在。受験の際は各学府の募集要項を参照すること。)

システム情報科学府		
専攻名(コース名)	修士定員	博士定員
情報学専攻	40	14
情報知能工学専攻	45	15
(知的情報システム工学コース)	(25)	
(社会情報システム工学コース)	(20)	
電気電子工学専攻	55	16
(情報エレクトロニクスコース)	(27)	
(電気システム工学コース)	(28)	
計	140	45

総合理工学府		
専攻名	修士定員	博士定員
量子プロセス理工学専攻	37	14

システム生命科学府 博士課程	
専攻名	定員
システム生命科学専攻	54

統合新領域学府		
専攻名	修士定員	博士定員
ユーザー感性学専攻	30	4
オートモーティブサイエンス専攻	21	7
ライブラリーサイエンス専攻	10	3
計	61	14

※システム情報科学府、総合理工学府では専攻構成の変更を計画しています。なお、この計画は予定であり、変更する場合があります。

表9 過去5年間の電気情報工学科卒業生（大学院進学者を除く）の主な就職先

R1	H30	H29	H28	H27
宮崎銀行	NTTドコモ	Roots	NTTファシリティーズ	JFEスチール
システナ	国立大学法人九州大学	富士通	speee	アドソル日進
オリンパス	なかま塾	NTTコムウェア	TIS西日本	エイチーム
トヨタ自動車	コロブラ	ジャパンビバレッジ	エイチアイデー	オービック
スズキ	Cygames	オービック	キャンリアルゴスロジック	九州NSソリューションズ
千代田計装	システナ	明電舎	シティアスコム	九州通信ネットワーク
レバレッジズ	九州旅客鉄道	ローム・アポロ	ソースネクスト	山陽電研
九電ビジネスソリューションズ	オービック	九州電力	西日本技術開発	四国電力
日本総合システム	富士通	三菱電機FA産業機器株式会社	日本電気通信システム	東芝
アドソル日進	日本航空	SHIFT	ムトウ	ニトリ
ラック	アイシンコムグループ	JFEスチール	メイテック	日本電営
九州電力	日立ソリューションズ	シャープ	新生銀行	ビズリーチ
楽天	新日鉄住金ソリューションズ	日本電営	電通イーマーケティングワン	マイクロメモリジャパン
ソニーLSIデザイン	スズキ	東京パワーテクノロジー	岡山県庁	三島光産
アイシン・ソフトウェア	Plustry	メイテック	沖縄県庁	三菱電機ホーム機器
テクノプロ・エンジニアリング社	エクストリンク	三島光産		リクルートホールディングス
スタンレー電気	東海理化	ヌーラボ		レイシャス
オービック	カーヴスジャパン	ユーエスイー		ワークスアプリケーションズ
JFEスチール	ソニーLSIデザイン	PALTAC		
テクノプロ・デザイン社	九州電子	国土交通省		
	アルプス技研	九州管区警察局		
	日立産業制御ソリューションズ			

※順不同

※大学院進学者の主な就職先は参考資料3を参照

